

UNISYS

第64期 中間報告書

2007年4月1日～2007年9月30日

株主のみなさまへ

U&U  
Users & Unisys

日本ユニシス株式会社  
証券コード8056



表紙のご説明

日本男子史上初の快挙!

「バドミントン世界選手権2007」で坂本・池田組が銅メダル獲得

2007年8月にマレーシアで開催された「バドミントン世界選手権※2007」において、日本ユニシス実業団バドミントン部男子チームの坂本修一・池田信太郎組(男子ダブルス)が、日本男子史上初の銅メダルに輝きました。

今後も、実業団バドミントン部男子チームは12月に開催される日本リーグでの3連覇をめざすとともに、2007年7月に新設した女子チームとともにオリンピックのメダル獲得に向けてチャレンジしていきます。

みなさまの熱いご声援をよろしくお願いいたします。

※バドミントン世界選手権  
1977年にスタートしたバドミントンの国際大会で、オリンピックと並び最高グレードの大会。この大会の結果は、世界ランキングや、オリンピックの代表選考レースに大きく影響します。

バドミントン部女子チームについてはP10でご紹介しています。

## Contents

株主のみなさまへ	3
決算の概況	4
ソリューション最前線	6
連結財務諸表	8
日本ユニシスグループ紹介	10
会社の状況	11

品質向上、成長加速に向けて体制を強化し、「高成長企業集団への脱皮」をめざします。



株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

日本ユニシスグループは、「高成長企業集団への脱皮」という将来ビジョンを実現するために、当期(2008年3月期)は品質の向上に向けた「サービス体制の強化」、成長の加速に向けた「ICT※1事業体制の強化」を重点的に推進しております。

「サービス体制の強化」としては、提案前から実行中の各段階におけるプロジェクト支援・審査体制を強化することで、リスクの早期発見・対応、状況の継続的な把握・早期対処が実現してきております。また、プロジェクト型組織編成を導入して、シニアSE(システム技術者)を増員するとともに、SEをフラットな組織に再編し、より柔軟なプロジェクトへの配置を実現しております。これらの施策の実行を通じて、一層の品質向上を図っております。

また、企業の安全なシステム構築においてネットワークが不可欠な存在となるなか、システム構築技術とネットワーク

技術を融合し、拡大するICT市場へ向けた「ICT事業体制の強化」に取り組んでおります。当中間期では、ネットマークス社を当社グループに加え、ネットワーク技術力を強化いたしました。さらに、アウトソーシングビジネスのさらなる強化に加え、SaaS※2ビジネスへ参入するなど、ビジネスの拡大に向けた積極的な取り組みを進めております。

今後も将来ビジョンを実現し、企業価値を向上すべく、グループを挙げて取り組んでまいります。株主のみなさまにおかれましては、引き続き一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2007年12月

代表取締役社長 **梶井 勝人**

※1 ICT  
Information Communication Technologyの略で、「IT」に「コミュニケーション」を加えた「ICT」という用語が定着し始めています。これからは電話やテレビなどさまざまなコミュニケーション媒体がインターネット上でつながり、情報をやりとりできるようになります。

※2 SaaS  
Software as a Serviceの略。ソフトウェアをインターネット上に置いて、「サービス」として提供する新しい形態。

## 決算ハイライト

- 1 サービスの増収が牽引し  
売上高は前年同期比158億円の増加
- 2 商標等使用料の負担減が寄与し  
営業利益は23億円の増益

### 事業環境

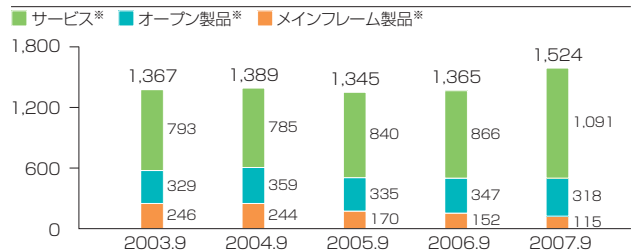
#### IT投資への需要は堅調に推移

当中間期のわが国経済は、堅調な企業収益を背景とした設備投資の増加や雇用情勢の改善などを受け、緩やかな拡大基調が続いていますが、米国の金融市場への不安や原油価格の高騰などから、先行きに対する不透明感も引き続き見受けられます。

情報サービス市場においては、金融業界を中心として需要の増加が続いているものの、一方で、企業がコスト削減や投資対効果(ROI)を重視する傾向も続いています。

連結売上高(中間期)

(単位:億円)



### 当中間期業績の概況

#### 売上高、営業利益、経常利益が増加

こうしたなか、日本ユニシスグループはリスクや採算性を重視した選別受注を進めるとともに、地方銀行様向けを中心に、柔軟性が高く新サービスの提供に迅速に対応できるという特徴をもった共同利用型のアウトソーシングビジネスを積極的に展開しています。また、幅広い分野のお客様に向けて、当社の強みであるミッションクリティカルなシステム※1構築力と豊富な業務ノウハウを活かしたソリューション※2を提供しています。

これらの結果、コンサルティング、システム構築などのシステムサービスの売上が伸長し、加えてネットマークスが新たに連結対象となったことから、売上高は前年同期比158億円増の1,524億円と、大幅増収を達成しました。

利益面では、ネットマークスの連結などに伴い販管費が増加したものの、米国ユニシス・コーポレーションに対する商標等使用料の支払いがなくなったことから、営業利益は前年同期比23億円増の31億円、経常利益は前年同期比20億円増の31億円となりました。

一方、子会社となったネットマークスの株価下落に伴い、特別損失として「のれん償却額※3」を59億円計上した結果、中間純損益については44億円の損失となりました。

なお、配当につきましては、配当方針として連結配当性向20%を掲げ、連結利益の増加に合わせた段階的な増配をめざしています。この方針に基づき当期配当金は1株につき年間12円を計画しており、中間配当金は6円としています。

#### ※サービス

コンサルティング、システム的设计・構築などのシステムサービス、運用・保守などのサポートサービス、アウトソーシングサービスなどの売上合計。

#### ※オープン製品

さまざまなメーカーの製品を組み合わせて構築する「オープン」関連のソフトウェア、ハードウェアの売上合計。

#### ※メインフレーム製品

独自設計による大型コンピュータ「メインフレーム」関連のソフトウェア、ハードウェアの売上合計。

### 2008年3月期の業績見通し

#### 売上高と営業利益が大幅伸長の見通し

売上高の通期見通しとしては、引き続きメインフレームが減少するものの、サービス関連売上が引き続き好調に推移する見通しであることから、前期比593億円増の3,668億円と大幅増収を計画しています。

営業利益については、販管費の増加が見込まれるものの、商標等使用料の支払いがなくなることもあり、前期比131億円増の194億円の見通しです。なお、当期純利益は特別損失として「のれん償却額※3」を67億円※4と想定しているため、33億円を見込んでいます。

#### ※1 ミッションクリティカルなシステム

社会や企業を支える重要なシステムのこと。たとえば銀行のシステムのように、障害が発生すると社会的にも多大な影響があるため「高い信頼性が求められるシステム」のことをいいます。

#### ※2 ソリューション

経営上や業務上の課題を解決するための情報システム全体のことをいいます。なお、日本ユニシスグループが提供するソリューション事例をP6「ソリューション最前線」でご紹介しています。

#### ※3 「のれん償却費」の特別損失計上

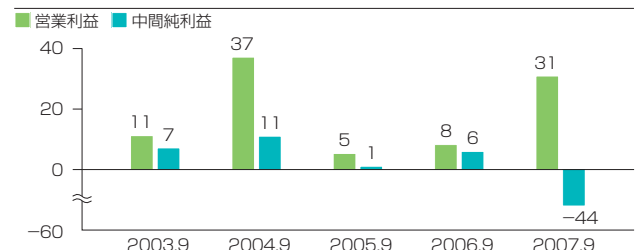
取得した株式の時価が著しく下落した場合には、個別決算上減損処理を行い、それに伴い連結決算上では特別損失に「のれん償却額」を計上する必要があります。これにより、のれん未償却残高が減少し、翌期以降の販管費に計上される「のれん償却額」は減少します。

#### ※4 通期の特別損失に計上する「のれん償却額」

通期の「のれん償却額」は、期末のネットマークス株式時価が9月末の株式時価と同額であることを前提に、同社期末純資産の状況を勘案し、来期以降償却すべきのれん残高を計算した結果に基づき算定しています。

連結利益(中間期)

(単位:億円)



## ネットマークスをグループに加え ICT市場でのワンストップサービス体制を強化

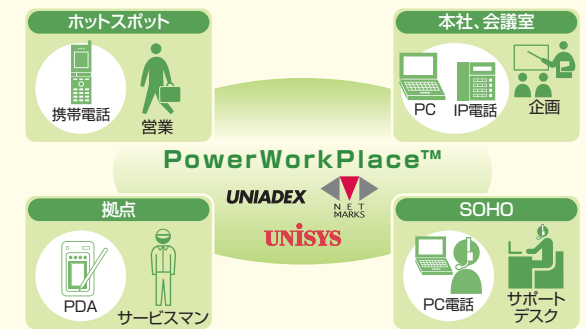
2007年6月、ネットワーク分野の営業力と技術力を強みとするネットマークス社を当社グループに加えました。これにより、グループ全体でシステムおよびネットワークのコンサルティングから構築、運用保守までをトータルに提供する体制を強化しました。

### ネットマークス連携効果

<b>顧客基盤の拡大</b> ネットマークスの顧客約2千社が加わり、グループ全体の顧客基盤が約1万社に拡大	<b>コストのシナジー</b> 保守業務や拠点統合、ファシリティの共有化などによるコスト削減
<b>技術力の強化</b> ユニアドックスとネットマークスの技術を連携し、ネットワーク社会の基盤技術で業界をリード	<b>営業力のシナジー</b> フルラインサービス提供体制の強化、新サービス提供による販売拡大

### 新コンセプト「PowerWorkPlace™」(パワーワークプレイス)

ICTビジネス拡大をめざし、日本ユニシスグループは新コンセプト「PowerWorkPlace™」を打ち出しました。いつでも、どこでも、誰とでもスムーズな情報交換・情報収集を可能にするソリューションを提供し、「ワークスタイルの変革」を支援していきます。





銀行で、学校で、病院で、ショッピングで——。  
暮らしの中のさまざまなシーンを支える  
日本ユニシスグループのソリューションの一例をご紹介します。

銀行の新サービス提供を支援する  
地方銀行様向け勘定系システム『BankVision®』

『BankVision』は、世界で初めてWindows®技術を全面採用した勘定系システムです。高い安全性・信頼性に加え、各種の業務・サービスを自由に追加・変更できる仕組みとなっており、最先端の商品・サービスをタイムリーに提供することが可能になります。

2007年5月から百五銀行様で稼働を開始し、ATM取引時間帯の拡大や休日窓口営業の実施などサービス拡充に活用されているほか、9月には山梨中央銀行様での採用も決まり、採用行は7行となりました。将来的には20行での採用をめざしています。



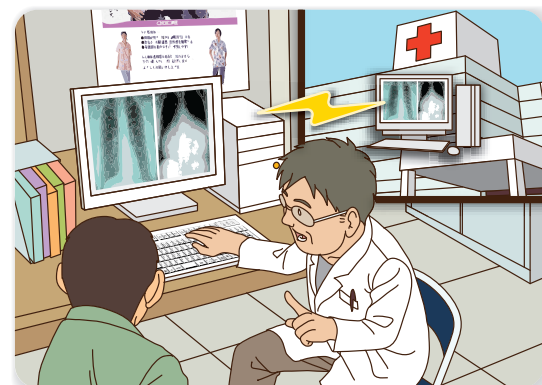
次世代の学校教育を支える学習管理システム  
『RENANDI® 統合eラーニングシステム』

『RENANDI統合eラーニングシステム』は、教材配信・情報交換・受講履歴管理のほか、テストやアンケートなど30以上の機能をもつ学習管理システムで、複数の大学、高等学校、中学校に導入されています。

インターネットを通じて24時間どこからでも接続できるため、「集合学習」「自己学習」「遠隔学習」といった多様な学習スタイルを可能にし、企業との人材交流や地域に密着した人材の育成など、これからの学校教育に求められる学習環境づくりをバックアップします。

また、この教育分野向けソリューション『RENANDI』のSaaS\*での提供も開始します。

\*「SaaS」についてはP3の※2をご参照ください。



質の高い医療サービスを可能にする  
総合医療情報システム『UniCare®』シリーズ

日本ユニシスグループは、総合医療情報システム『UniCare』シリーズの提供を通じて、電子カルテ作成から会計管理まで、医療業務の最適化を支援しています。このシステムによって、待ち時間の低減や情報伝達ミスの防止など、患者に快適なサービスを提供することができます。

また、日常的な診療を行う近隣の診療所と、精密検査や高度治療を行う総合病院間で、患者情報を一元管理できるようになるため、遠隔治療や複数の医療機関でのスムーズな治療ができる地域医療連携を実現します。

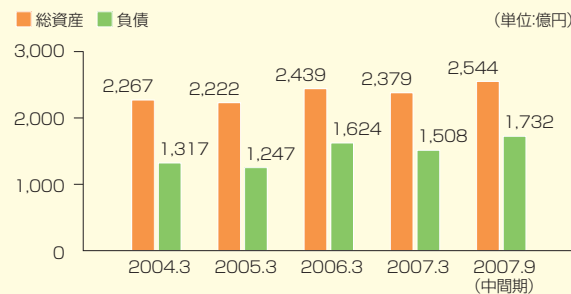


“顧客の声”を分析、蓄積することで  
顧客満足度向上を実現する『CVPro®』

消費者から寄せられる膨大な“声”をもっと有効に活用したい——こうしたご要望に応えるのが、日本ユニシスグループが通販業界などのお客様に提供している『CVPro』です。

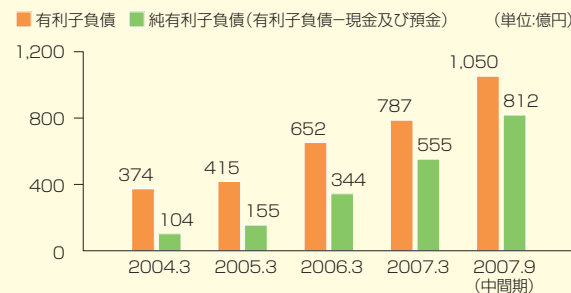
問合せ、苦情、要望、感謝などの生の“声”と、それらに対する対応・回答を即時にデータベース化。消費者に迅速・的確なサービスを提供できるほか、“声”を分析することにより商品・サービスの改善や新商品開発にも活用することができます。

総資産／負債



ネットマークスが新たに連結対象となったことで総資産・負債のいずれも増加し、総資産は前年同期比200億円増の2,544億円、負債は前年同期比225億円増加の1,732億円となりました。

有利子負債／純有利子負債



ネットマークス株式取得やアウトソーシングの先行投資にかかわる資金需要に対して借入を実施した結果、有利子負債残高は前年同期比216億円増加の1,050億円、純有利子負債残高は前年同期比で247億円増加の812億円となりました。

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当中間期末 (2007.9.30)	前中間期末 (2006.9.30)	前期末 (2007.3.31)
<b>資産の部</b>			
流動資産	140,196	137,088	134,053
固定資産	114,192	97,350	103,808
有形固定資産	22,681	19,521	20,121
無形固定資産	37,221	29,206	29,473
投資その他の資産	54,288	48,622	54,213
資産合計	254,388	234,438	237,861
<b>負債の部</b>			
流動負債	116,755	103,736	120,425
固定負債	56,435	46,929	30,418
負債合計	173,191	150,665	150,843
<b>純資産の部</b>			
株主資本	78,563	80,255	83,277
資本金	5,483	5,483	5,483
資本剰余金	15,501	15,600	15,514
利益剰余金	76,713	78,580	81,456
自己株式	△19,136	△19,446	△19,178
自己株式申込証拠金	2	38	0
評価・換算差額等	1,726	2,770	2,844
新株予約権	145	-	66
少数株主持分	762	746	830
純資産合計	81,197	83,772	87,018
負債純資産合計	254,388	234,438	237,861

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております)

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期 (2007.4.1~2007.9.30)	前中間期 (2006.4.1~2006.9.30)	前期 (2006.4.1~2007.3.31)
売上高	152,359	136,526	307,455
売上原価	115,673	109,269	244,258
売上総利益	36,685	27,257	63,196
販売費及び一般管理費	33,634	26,462	56,917
営業利益	3,051	795	6,278
営業外収益	657	632	1,125
営業外費用	605	311	758
経常利益	3,102	1,116	6,646
特別利益	411	24	95
特別損失	6,426	279	430
税金等調整前中間(当期)純利益(△は損失)	△2,911	862	6,311
法人税、住民税及び事業税	1,742	1,622	5,501
法人税等調整額	△174	△1,414	△2,790
少数株主利益	△117	80	166
中間(当期)純利益(△は損失)	△4,362	574	3,433

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております)

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期 (2007.4.1~2007.9.30)	前中間期 (2006.4.1~2006.9.30)	前期 (2006.4.1~2007.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,917	△5,735	8,813
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,889	△19,511	△32,270
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,546	21,320	15,856
現金及び現金同等物中間期末(期末)残高	23,857	26,901	23,225

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております)

営業利益

研究開発などへの積極的な投資やネットマークス連結による販管費の増加72億円を、商標等使用料の負担減やサービスの増益による売上総利益の増加94億円が補い、営業利益は前年同期比23億円増の31億円となりました。

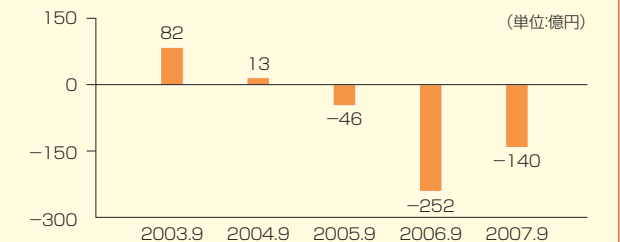
中間(当期)純利益

ネットマークスの株価下落に伴い、特別損失として「のれん償却額\*」を59億円計上したことから、44億円の損失(前年同期は6億円の利益)となりました。

\*「のれん償却額」の特別損失計上についてはP5の※3をご参照ください。

フリー・キャッシュ・フロー  
(営業キャッシュ・フロー+投資キャッシュ・フロー)

ネットマークス株式取得費用、アウトソーシングの先行投資によって140億円の支出となりましたが、商標等使用料の負担がなくなったことなどから、前年同期比では113億円改善しています。アウトソーシングへの投資も今後は減少する予定であり、2008年3月期末以降は改善を見込んでいます。



## マーケティング&ビジネス開発&コンサルティング

コンサルティングおよび営業・マーケティング  
日本ユニシス(4,436名)

コンサルティングサービス  
ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ(42名)

## ネットワーク&サポートサービス

ネットワークおよび保守サービス  
ユニアテックス(2,486名)

ネットワークサービス  
ネットマークス(559名)  
ネットマークスサポートアンドサービス(119名)  
エス・アンド・アイ(190名)

## システムサービス

ITソリューションサービス  
USOLホールディングス(4名)  
USOL北海道(108名) USOL東北(29名) USOL東京(264名)  
USOL中部(120名) USOL関西(57名) USOL中国(65名)  
USOL九州(52名)  
USOLベトナムコーポレーション(92名)

CAD/CAMシステム関連サービス  
日本ユニシス・エクセルレーションズ(267名)

沖縄を拠点としたITソリューションサービス  
国際システム(137名)  
流通/製造向けITソリューションサービス  
G&Uシステムサービス(71名)

## アウトソーシング&サプライ

コンピュータサプライサービス  
日本ユニシス・サプライ(171名)  
ITアウトソーシングサービス  
エイタス(100名)  
商品先物業界向けアウトソーシングサービス  
トレードビジョン(5名)  
アプリケーション・アウトソーシングサービス  
ユーエックスビジネス(1名)

## グループサービス

グループ共通業務および各種サービス  
日本ユニシス・ビジネス(224名)  
教育関連サービス  
日本ユニシス・ラーニング(33名)  
グループ経理業務サービス  
日本ユニシス・アカウンティング(非連結子会社)  
米国拠点  
NULシステムサービス・コーポレーション(非連結子会社)  
( )内は連結対象人員数

商号 日本ユニシス株式会社 Nihon Unisys, Ltd.

設立 1958年3月29日

資本金 54億8,317万6,200円  
[発行済株式の総数 109,663,524株]

事業内容 コンサルティングサービス、ITソリューション、アウトソーシングサービス、サポートサービスおよびシステム関連サービスの提供、ならびにコンピュータシステム(ハードウェア、ソフトウェア)の販売

従業員 4,436名(連結子会社を含む従業員数:9,632名)

会計監査人 監査法人トーマツ

事業所 本社 〒135-8560  
東京都江東区豊洲一丁目1番1号  
支社 関西(大阪)、中部(名古屋)、九州(福岡)  
支店 北海道(札幌)、東北(仙台)、新潟(新潟)、北陸(金沢)、静岡(静岡)、中国(広島)

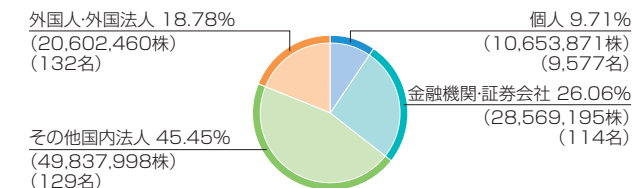
## 役員

取締役および監査役	執行役員
代表取締役社長 靱井 勝人	上席常務執行役員 平岡 昭良
代表取締役専務執行役員 白鳥 恵治	常務執行役員 加藤 俊彦
代表取締役専務執行役員 福永 努	常務執行役員 原田 陽一
代表取締役常務執行役員 柏木 直哉	常務執行役員 龍野 隆二
代表取締役常務執行役員 松森 正憲	常務執行役員 田山 仁
代表取締役常務執行役員 佐伯 基憲	常務執行役員 藤沢 正幸
代表取締役常務執行役員 堀川 二三夫	常務執行役員 高橋 勉
代表取締役常務執行役員 鈴木 郊二	常務執行役員 沢田 啓
取締役(社外取締役) 伊藤 博	常務執行役員 井上 茂
取締役(社外取締役) 高橋 修	常務執行役員 稲泉 成彦
常勤監査役(社外監査役) 岩永 誠	常務執行役員 高木 歩
常勤監査役 平福 正民	上席執行役員 丸山 修
常勤監査役(社外監査役) 蒲生 英雄	執行役員 小林 正己
監査役(社外監査役) 清塚 勝久	執行役員 田崎 稔
	執行役員 清川 幸三
	執行役員 太田 保明
	執行役員 秋山 眞
	執行役員 梅原 吉雄
	執行役員 岡部 長栄
	執行役員 松浦 光男

## 株式の状況

株主数 9,952名

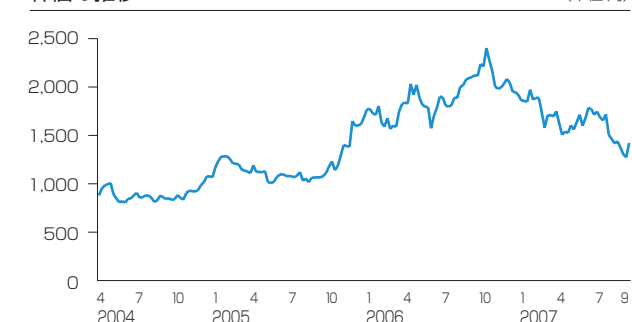
所有株数別分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
三井物産株式会社	30,524	27.84
日本ユニシス株式会社(自己株式)	13,660	12.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,933	7.23
農林中央金庫	4,653	4.24
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,277	3.90
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウンツィー アイエスジー	2,657	2.42
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	2,148	1.96
全日本空輸株式会社	1,794	1.64
日本ユニシス従業員持株会	1,686	1.54
チェース マンハッタン バンク ジーティーエス クライアント アカウト エスクロウ	1,410	1.29

株価の推移



## TOPICS



## 日本ユニシス実業団バドミントン部女子チームを創設

2007年7月、現在日本のチャンピオンチームである実業団バドミントン部男子チームに続き、「実業団バドミントン部女子チーム」を発足しました。

監督には、選手として数多くの優勝実績をもつ田兒よし子が就任します。また、現在6名の選手が内定しており、2005年、2006年「全日本学生選手権大会」シングルスチャンピオンで日本代表の平山優選手をはじめ、全内定者が日本でトップレベルの大学生、高校生です。

今後女子チームは、男子チームとともに、オリンピックでのメダル獲得、日本の2大タイトルである「全日本実業団選手権大会」、「日本リーグ」の制覇に向けて挑戦していきます。

日本ユニシス実業団バドミントン部オフィシャルサイト: <http://www.unisys.co.jp/BADMINTON/>

## 株主メモ

1単元の株式数	100株
決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日(定時株主総会において議決権を行使すべき株主の確定日)
期末配当金および中間配当金	期末配当金は毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿記載(記録)の株主に、中間配当金は毎年9月30日現在の株主名簿および実質株主名簿記載(記録)の株主に、それぞれお支払いいたします。
株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
お問い合わせ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社 本店
電子公告	ホームページ <a href="http://www.unisys.co.jp/com/notification/">http://www.unisys.co.jp/com/notification/</a> に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部
証券コード	8056

## 株主の名義書換、住所変更など株式のお手続きに関するお問合せ等

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-288-324(フリーダイヤル)

各種手続き用紙はホームページからもダウンロードできます。  
<http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/tetsuduki/index.html>

## 日本ユニシス株式会社

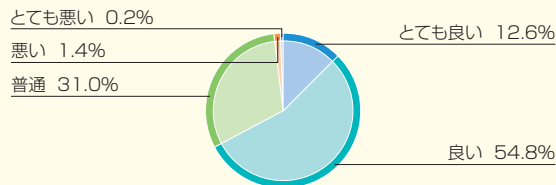
本社 東京都江東区豊洲1-1-1 〒135-8560  
電話 03-5546-4111(大代表)  
<http://www.unisys.co.jp>



## 株主様アンケート集計結果

第63期報告書のアンケートにおいて、1,374名の株主のみならずから回答をお寄せいただきました。みなさまの貴重なご意見はさらなるIR活動の充実のために活かしてまいります。ご協力ありがとうございました。

### 報告書の印象



### みなさまからのご要望と改善点(抜粋)

ネットマークスとの連携効果(メリット)が知りたい

「決算の概況」内(P5)に、ネットマークスとの連携効果について掲載しています。

日本ユニシスのスポーツ活動が知りたい

当社バドミントン部について、「表紙のご説明」(P2)、「日本ユニシスグループ紹介」内(P10)にて紹介しています。



IR情報は当社ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.unisys.co.jp/invest-j/>



この報告書は、環境に配慮したFSC認証用紙と、大豆油インキを使用して印刷するとともに、針金を使わず「ECO綴じ」にて製本しております。